

## 4. 第2次計画期間（5年間）の取り組みの評価

### 4-1. すくすくステーションの取り組み

母子の健康の保持増進と母子保健の向上を図ることと、虐待の予防および早期発見に努めることを目的とし、平成28年8月より子育て支援課内に「すくすくステーション」を設置しました。

従来の、保健師を中心とした支援および既存の母子保健事業に加え、新規事業として次のとおり実施し、支援の必要な者をキャッチするネットワークを強化し、妊娠・出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実に努めました。

#### ■重点的な取り組みについて

##### 1) すくすくステーションの目的、目標及び評価項目

- (1) 目的：親子が元気に暮らすこと
- (2) 目標：
  - ①地域と繋がるところを持つ
  - ②SOSを出せる場所を知っている
  - ③育児は人によって違うことを共有できる
  - ④自信を持って情報選択し、自分を責めずに育児をする
- (3) 評価項目（主要な項目）

目標①	目標②	目標③	目標④
ひろば事業 参加回数 参加人数	妊娠届出時面接者数 妊娠中の電話・手紙 支援の必要な妊婦数 支援プラン作成数 サポートプラン作成数（作成率） E P D S高得点者数	健康教室 実施回数 参加人数	サポート会議 開催回数 未就学児 要支援児童数 要保護児童数

※H28年8月～実施のため、経年比較はH29年以降で行う。

##### 2) 新規事業について

H28	不妊・不育治療費助成事業、産後2週間サポート事業、プレママ元気の輪、妊婦台帳の作成、妊娠届出時に全員の方にすくすく応援サポートプラン（妊婦支援計画）を保健師と作成、妊婦への電話または手紙での状況確認、窓口や健診での名刺配布による保健師の周知、ひろば事業への参画
H30	産婦健康診査事業、新生児聴覚検査助成事業、産後ケア事業

#### ■今後の方向性

- 1) 妊婦への支援の充実
- 2) すくすくステーション及び担当保健師の周知による相談しやすい環境づくり
- 3) 支援の必要な方へのきめ細かな対応（キャッチするネットワークの強化）
- 4) 関係機関との連携

## 4-2. 食育の取り組み

「食育」とは、「食育基本法」において「生きる上での基本であって、知育、徳育および体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」とされています。関係機関が連携し、生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育を推進しています。

### 1) ライフステージ別食育の取り組み

- (1) 妊娠期：妊娠届時の面接において、推奨体重増加量、食事バランス等について保健師による個別指導を実施。プレママの元気な輪（妊婦を対象とした教室）の実施。
- (2) 乳幼児期：乳幼児健診・すぐすぐ相談等各種母子保健事業時における、保健師
  - ・栄養士による集団指導および個別相談、熊取町食生活改善推進員によるおやつの話の実施。
  - 離乳食講習会の実施。
  - 保育所における保育士、保育所栄養士および熊取町食生活改善推進員による食育教室の実施。
- (3) 学齢期：小中学校における学校栄養教諭による栄養指導。
  - 熊取町食生活改善推進員による親子クッキングの実施。
  - 学校給食に地場産の食材を取り入れる。
- (4) 青壯年期
  - ・高齢期：がん検診等における集団指導や個別相談の実施。
    - 熊取町国保特定健診時の当日指導や健診結果に基づく生活習慣病予防および重症化予防の保健指導の実施。
    - 特定保健指導として集団教室の実施。
    - (高齢期) 介護予防教室での集団指導や個別相談の実施。
- (5) 全年代：農業祭における地場野菜の販売やPR。

## 2) 新たな食育の取り組み

### (1) 妊娠期における食育

妊婦を対象とした「プレママ教室」で、助産師や保健師の話に加え、管理栄養士による朝食や野菜摂取・減塩などの話および調理実習を実施しました。

区分	H25	H26	H27	H28	H29
開催回数	—	—	—	1回	2回
参加人数	—	—	—	5人	12人

### (2) 町立保育所における食育

保育所栄養士が、各町立保育所の主に4・5歳児を対象に「朝食摂取」「栄養バランス」「旬の食材」「マナー」などテーマを変えて、月1回巡回栄養指導を実施するよう充実させました。

区分	H25	H26	H27	H28	H29
実施回数	—	—	60回	48回	48回

熊取町食生活改善推進員が町立保育所の5歳児を対象に、「3色栄養」などの話と「食品つり」や「ブラックBOX（箱の中に手を入れ、食材を当てる）」などゲーム形式で体験できる出前講座を実施しました。

区分	H25	H26	H27	H28	H29
実施回数	—	—	1回	2回	2回

### (3) 熊取コロッケの普及啓発活動

熊取町立小中学校の給食で、熊取コロッケがメニューとして取り入れられました。

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
導入校数	—	—	—	8校	8校	8校

飲食店や事業所などで、熊取コロッケを販売してもらうよう働きかけました。

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
取り扱い箇所数	—	—	—	—	15箇所	20箇所

### (4) タピオステーションにおける食育

熊取町食生活改善推進員が各タピオステーションの要望に応じて、「減塩」など食生活改善に関する出前講座を実施しました。

区分	H25	H26	H27	H28	H29
実施回数	—	—	—	—	1回

## 4-3. 重症化予防事業の取り組み

### 1) 受診勧奨判定値を超えている者への受診勧奨

#### (1) 目的

メタボリックシンドロームの有無に関わらず、高血圧、脂質異常、高血糖、高尿酸血症などを放置すると、血管が痛んで動脈硬化が促進されます。重症化すると、脳血管疾患や虚血性心疾患、透析など被保険者のQOL（生活の質）が著しく低下することになります。受診が必要な者を確実に医療につなげることにより、重症化予防と医療費抑制を図ります。

#### (2) 対象者

- ① 集団特定健診受診の結果、要医療判定を示した者のうち、熊取町独自に設けた基準に該当した者、および非肥満未治療高血糖者（BMI25 未満かつ HbA1C6.5%以上かつ未治療者）。
- ② 集団健診当日、非肥満血圧高値者（BMI25 未満かつ血圧 160/100mmHg 以上の者）

#### (3) 実施者

保健師、管理栄養士

#### (4) 実施方法

- ① 対象者には、受診が必要な旨・後日受診確認する旨を記載した文書を同封して、結果説明会または郵送で特定健診結果を返却します。なお、糖尿病・腎機能・心電図・聴診結果の項目で対象となった者には、必要に応じて紹介状を発行します。
- ② 集団健診当日、対象者には保健師が面接により受診勧奨を行います。  
結果返却後1～2か月後に、保健師または栄養士より受診確認の電話をかけます。  
また、受診勧奨の結果を、健康管理システムに入力して管理しています。

#### (5) 実施期間

集団健診当日、結果返却後1～2か月後

#### (6) 実績

(単位：人)

区分	H25	H26	H27	H28	H29
受診勧奨対象者	135	184	347	360	309
受診勧奨実施者	135	184	347	360	309
受療状況確認者	64	113	138	194	216

## 2) 糖尿病性腎症重症化予防事業（平成 28 年度開始）

### （1）目的

糖尿病性腎症の国民健康保険被保険者で、生活習慣の改善により重症化の予防が期待される者に対して、医療機関等と連携しながら、保健指導等による介入を行い、自分で体調管理できるように促し、透析への移行など糖尿病性腎症の重症化を遅らせ、QOL（生活の質）の維持向上を図ります。

### （2）対象者

糖尿病性腎症（特定健康診査受診者のうち、以下の両条件を満たす者）であって、人工透析を行っていない者。

- HbA1C が 6.5%以上の者
- e-GFR が 5mL/分/1.73 m<sup>2</sup>以上 60 mL/分/1.73 m<sup>2</sup>以下または、尿蛋白 2+ 以上の者

### （3）実施方法

糖尿病性腎症の者で生活習慣の改善により重症化の予防が期待される者に対して、保険者が医療機関と連携して保健指導等による介入を行います。

### （4）実施期間

春の集団健診実施後から 6 か月間

### （5）実績

（単位：人）

	H28	H29
参加者数	7	7

#### 4-4. 「くまとりタピオ元気体操」の取り組み

「くまとりタピオ元気体操」は、町民の健康づくりや介護予防を目的に、平成18年度、大阪体育大学の協力のもとに作成した町オリジナル体操です。体操練習日や出前講座などを通して、健康づくりボランティアグループ「くまとりタピオ元気体操ひろめ隊」と協働で町民への普及・啓発を図っています。

団塊の世代が75歳を迎える2025年を見据え、身近な地域で気軽に介護予防に取り組むことができるまちづくりをめざし、この体操をより体力づくりに効果的なメニューとして平成27年度、大阪体育大学や町の介護予防事業専門スタッフの協力のもと「タピオ体操+（プラス）」にリニューアルしています。

地域主体で「タピオ体操+（プラス）」に取り組む場を「タピオステーション」として、町はその立ち上げ等継続的に支援を行い、町内全域への展開をすすめています。

##### 1) 「タピオ体操+（プラス）」について

区分	くまとりタピオ元気体操 (通称:タピオ体操)	タピオ体操+
プログラム	タピオ体操(立位・座位)	タピオ体操(立位・座位)、おくちの体操、筋力トレーニング、ストレッチ、あたまの体操
所要時間	各4分程度	50分程度
効果	柔軟性・バランス力アップ、 (認知症予防)	柔軟性・バランス力アップ、筋力アップ、口腔機能向上、認知症予防
特徴	子どもから高齢者まで、音楽にあわせて身体を動かすことができる。	セラチューブ(ゴム製、強度は6段階)を使用し、個々の体力に応じて筋力アップを図ることができる。

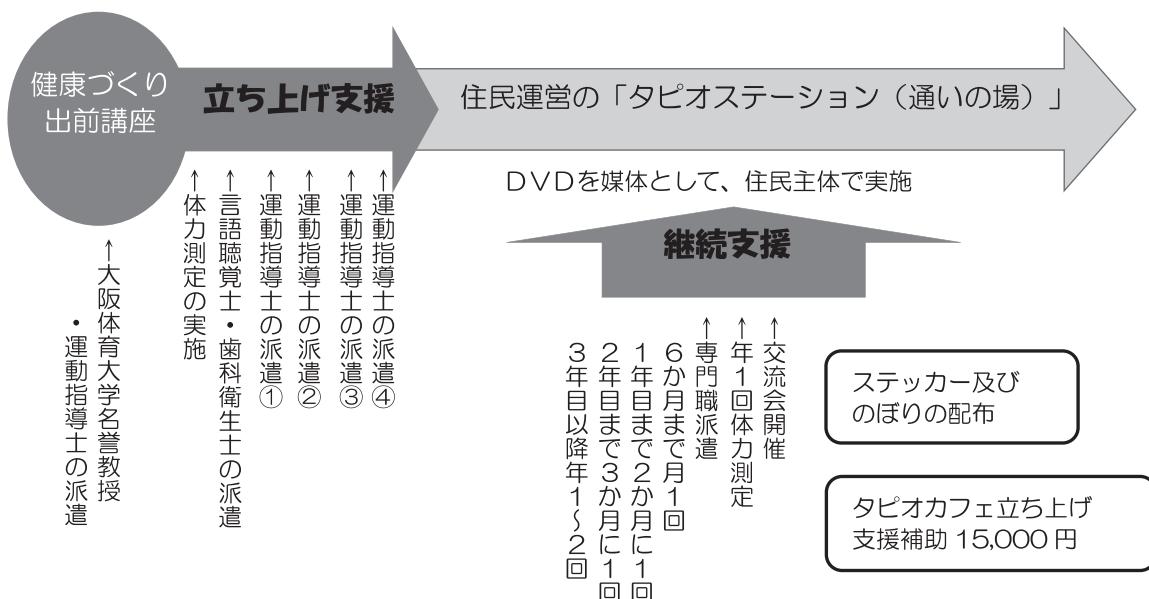


「タピオ体操+（プラス）」  
DVD・リーフレット



タピオ練習日の様子

## 2) タピオステーション支援内容



## タピオステーションの様子



## タピオステーションの様子

### 3) タピオステーション実施状況

区分	立ち上げ支援実施地区
H27 モデル地区(1)	南山の手台
H28 モデル地区(2)	若葉、水莊園
H29(10)	桜が丘、美熊台、青葉台、緑ヶ丘、自由が丘、翠松苑、新野田、大久保サニーハイツ、池の台、久保
H30(7)	山の手台、希望が丘、小垣内、高田、老人福祉センター、つばさが丘北、つつじヶ丘

※町内、全 39 地区

## 4-5. 「熊取ぴんぴん元気！ポイントアップ事業」の取り組み

熊取町版の健康マイレージ事業として、従前からあった健康くまとり探検隊、熊取町食生活改善推進協議会、くまとりタピオ元気体操ひろめ隊への参加をポイント付与対象とした「ぴんぴん元気！カード」のポイント付与対象範囲の拡充や特典内容の充実を図ることにより「住民の健康づくりへの機運醸成と行動変容を一步促すこと」を目的とした「熊取ぴんぴん元気！ポイントアップ事業」を平成28年度より開始しました。

### 1) 事業内容

特定健康診査や各種がん検診の受診をはじめ、町の健康づくりグループが主催する活動への参加、自分で目標設定した健康づくりへの取り組みに対してポイントを設定し、一定貯まると賞品がもらえる制度です。



賞品は、集客性に考慮し、参加者全員がもらえる「達成証」と「達成者賞」、抽選で当たる「特別賞」を設定しました。

具体的には「達成者賞」は集団がん検診無料クーポン券やひまわりドーム各種教室体験利用券などからひとつを選んでもらい、「特別賞」は、自転車やノンフライヤーなどの健康づくりに関連する商品として選定しました。

### 2) 事業実績

(単位:人)

参加者数		H28	H29
総 数		113	226
年 代 別 内 訳	20 歳代	2	4
	30 歳代	6	9
	40 歳代	18	28
	50 歳代	6	22
	60 歳代	48	75
	70 歳代	32	82
	80 歳以上	1	6

事業参加者に対して、本事業についてのアンケートを実施した結果、各年度とも9割以上の方が、本事業が健康づくりに対して考えるきっかけとなったり、意識が強くなつたと回答がありました。また、40歳以上の参加者のうち、がん検診や特定健康診査を受診された人も9割以上となり、「健康づくりへの機運醸成」の目的に向かっています。

Q. 熊取びんびん元気！ポイントアップ事業に参加して健康づくりを考えるきっかけになりましたか。または、意識が強くなりましたか。

(単位:人、%)

区分	H28		H29	
	回答数	割合	回答数	割合
はい	110	97.3	206	91.2
いいえ	2	1.8	12	5.3
無回答	1	0.9	8	3.5

Q. 今年度において、がん検診または特定健康診査を受診されましたか。(40歳以上が回答)

(単位:人、%)

区分	H28		H29	
	回答数	割合	回答数	割合
はい	100	94.3	196	92.0
いいえ	6	5.7	15	7.1
無回答	0	0	2	0.9

### 3) 今後の課題

参加者数がまだ少ない状況であるので、より多くの人にPR活動を実施していくとともに、事業内容の見直しを図り、より手軽に申請していただける方法や、ポイント付与の対象の拡大などの工夫が必要となっています。

## 4-6. 自殺対策の取り組み

本町における自殺対策の取り組みは、平成18年に自殺対策基本法が制定されて以降、国および府の「地域自殺対策緊急強化事業」の実施を受けて、平成22年度より取り組んできました。

平成25年度以降の取り組みとしては、自殺対策の人材養成事業として「ゲートキーパー養成研修」の実施および「ゲートキーパー手帳」の作成・配付、各種相談先をまとめた「相談窓口ガイド」の発行、町の「住民相談事業関係課連絡会」の研修を兼ねた事例検討会の開催、メンタルチェックシステム「こころの体温計」の導入・運用をおこなっています。

### 1) 取り組みの実施経過

#### ■平成25年度

○発達障がい児や親を支援している関係職種を対象に研修実施

開催日時：平成25年8月28日（水）

テー マ：「発達障がいのある子ども及び保護者支援について」  
～うつ予防と障がい受容を中心に医療の現場から～

講 師：こども心身医療研究所 医師 仲野由季子氏

内 容：・障がい受容の過程を正しく学ぶとともに、うつへの理解を深める。

参加者数：40人

○「相談窓口ガイド」及び「ゲートキーパー手帳」の作成 各500部

○校区福祉委員（民生委員児童委員ほか）を対象としたゲートキーパー養成研修の実施

開催日時：平成26年1月29日（水）

テー マ：「深めよう地域のきずな、人と人がつながり合うまち」

講 師：関西医科大学附属滝井病院 精神神経科  
医師 織田裕行 氏、精神保健福祉士 山田妃沙子 氏

内 容：・新たに民生委員児童委員に就任された方などを中心に、地域の住民と関わる際の知識の習得と実際の対応方法について学ぶ機会とする。

参加者数：22人

○町職員（主に窓口担当・相談業務担当）を対象にしたゲートキーパー養成研修の実施

開催日時：平成26年1月28日（火）、2月18日（火）

テー マ：①「地域の絆でひとがつながるまちづくり」  
②「悩みに気づき、声をかけ、話を聞いて、つなげよう」

講 師：関西医科大学附属滝井病院 精神神経科  
医師 織田裕行 氏、精神保健福祉士 山田妃沙子 氏

内 容：①自殺の実態とその予防について知識を深めるとともに、各職場で取り組む業務が、自殺のない、住民ひとりひとりがいきいきと豊かに暮らせる健康まちづくりにつながることを認識していただく機会とする。

②窓口対応で知っておきたい知識の習得と実際の対応方法について学ぶ機会とする。また、各職場の連携の重要性について意識していく機会とする。

参加者数：①7人 ②11人

## ■平成26年度

○発達障がい児や親を支援している関係職種を対象に研修実施

開催日時：平成26年8月5日（火）

テー マ：「子どもの発達とこころのケア」

講 師：こども心身医療研究所 医師 仲野由季子氏

参加者数：40人

○町内の介護施設等で従事するケアマネジャー等の専門職を対象に研修実施

開催日時：平成27年1月14日（水）

テー マ：「グリーフケアから学ぶ残された方とあなたの悲しみを癒すスキル」

講 師：大阪あべのカウンセリングルーム

精神保健福祉士／心理カウンセラー 関谷 共未 氏

内 容：  
・ケアマネジャーとして相談業務に携わる際に参考となる知識の習得  
・ケアマネジャー自身の精神の安定と自己管理

参加者数：29人

## ■平成27年度

○ゲートキーパー養成研修の実施（「住民相談事業関係課連絡会」研修会を兼ねる）

開催日時：平成28年2月26日（金）

内 容：  
・自殺者の現状について  
・事例検討および情報交換

参加者数：20人

## ■平成28年度

○ゲートキーパー養成研修の実施（「住民相談事業関係課連絡会」研修会を兼ねる）

開催日時：平成28年7月26日（火）

内 容：  
・自殺者の現状について  
・事例紹介（消費生活相談員より）  
・事例検討および情報交換

参加者数：18人

○「相談窓口ガイド」の作成 500部

○メンタルチェックシステム「こころの体温計」の導入（H28.8.26～運用開始）

○「こころの体温計」周知用チラシの作成

中学生配布用 1,600枚 成人配布用 1,800枚

○若年層自殺予防対策人材養成事業の実施（子ども相談ネットワーク会議実務者研修を兼ねる）

開催日時：平成28年11月4日（金）

内 容：講義 テーマ「子どものSOSをキャッチしよう

～今からできる親と子のきずなづくり～」

講師 兵庫県こころのケアセンター副センター長兼研究部長

精神科医 駒岡 智美氏

参加者数：42人

## ■平成29年度

○「こころの健康講座」の開催

（業務主管課研修及び住民相談事業関係課連絡会研修会を兼ねる）

開催日時：平成29年10月17日（火）

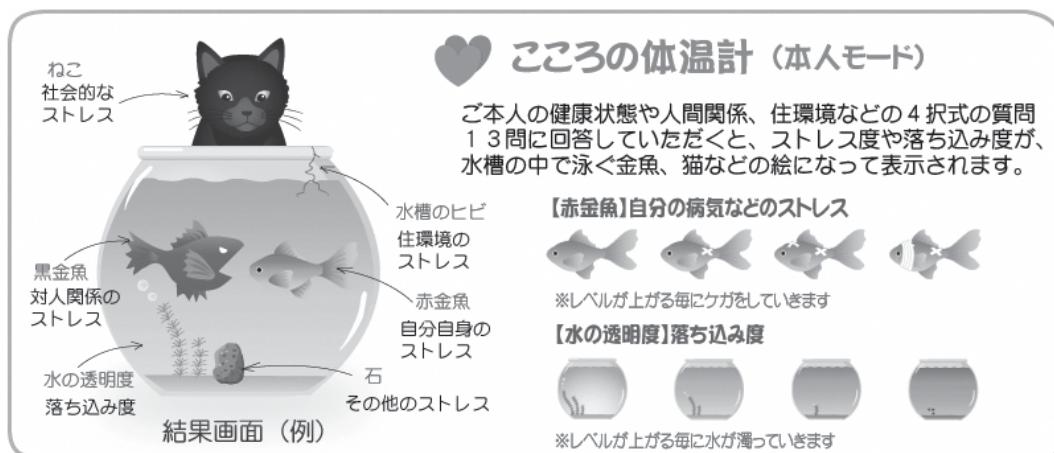
内 容：「女性の飲酒とアルコール依存症について」

～女性のライフサイクルとの関連から理解する～

講師 医療法人聖和錦秀会 阪本病院 院長 大西英周氏

参加者数：15人

○メンタルチェックシステム「こころの体温計」の運用



#### 4-7. 「健康くまとり21」における評価指標と取り組み

分類	評価指標	対象	方法	H2O	H25	取り組み	H29	H30目標値
次世代の健康	全出生数中の低出生体重児の割合の減少 肥満（中等度・高度）傾向にある子どもの割合の減少	出生児	既存データ集計 H18-22平均	10.6 男3.5 女3.6	・妊娠届出時全数面接（BMI別体重増加表の活用 禁煙指導）		9 H24-28平均	9.6
栄養・食生活（食育）	朝食をほとんど毎日食べる割合	小5 既存データ集計	アンケート 80.9	91.8	・野菜ハリハリ朝食モリモリ」普及活動	91.4 男4.1 女2.8	96	
		中2 既存データ集計	アンケート 88.2	88.2	・食育担当者連絡会議の開催	85.2 81.8	96 85	
		4か月児親 既存データ集計	アンケート 81	84.5	・こんにちは赤ちゃん訪問（助産師部）による指導	58.2	96	
		20歳代 既存データ集計	アンケート 80.6	80.6	・4か月健診で親の朝食状況も問診し、指導			
		30歳代 既存データ集計	アンケート 88	88		89.1	96	
	朝食の内容（主菜の摂取割合）	小6・中2 既存データ集計	アンケート 20.9	20.9	・おんぶでクッキングの開催	22.6 30.6	30.8 30.5	
		20歳以上 既存データ集計	アンケート 25.7	25.7	・3歳6か月健診時の集団指導でバランスよい朝食、おやつ摂取の仕方、共食の大切さなどについて話す	14.6 15.1	19.6 14.8	
	朝食の内容（副菜の摂取割合）	小6・中2 既存データ集計	アンケート 13.6	13.6	・特定健診時に健診コナーで熊取町食生活改善推進協議会に	30.3 39.4	44.6 33.8	
		20歳以上 既存データ集計	アンケート 28.2	28.2	より、食事バランスガイドのPRをおこなう	20.6	33.3	
	孤食（朝食をひとりで食べる）の割合	小6 既存データ集計	アンケート 19.1	18.4	・熊取町食生活改善推進協議会の活動支援（親子クッキング、中高年とのクッキング、みそづくりなど）	87.1	90	
		中2 既存データ集計	アンケート 35.1	35.1	食品を選ぶ知識（3つの食品群）	43 76.6	60 90	
	毎食野菜を食べる人の割合	20歳以上 既存データ集計	アンケート 24.2	24.2	食品を選ぶ知識（食事バランスガイド）	72.1	90	
		小6・中2 既存データ集計	アンケート 81	81	食育に関心がある人（関心がある・どちらかと言えば関心がある）の割合			
		20歳以上 既存データ集計	アンケート 48.1	46.2	食育に関心がある人（関心がある・どちらかと言えば関心がある）の割合			
		小6・中2 既存データ集計	アンケート 59.6	75.5	熊取町の特産物を利用した食事を食べる人の割合			
		20歳以上 既存データ集計	アンケート 73.9	73.6	熊取町の特産物を利用した食事を食べる人の割合			
		20歳以上 既存データ集計	アンケート 73.6	73.6	・農業祭への参画	84.5 77.8	83.7 80	
	食事づくりに携わる子どもの割合	小6・中2 既存データ集計	アンケート 53.7	53.7		31.7	40	
		小6・中2 既存データ集計	アンケート 32.1	32.1				
身体活動・運動	1歳～小3 子どもの運動習慣（週3日以上、1回30分以上の運動）	アンケート 68.9	68.9	・健康教室および介護予防教室卒業生による、自主体操グループ結成支援	65.6	70		
		小6・中2 既存データ集計	アンケート 69.8	70.9	・健康くまどり探検隊のウォーキングマップおよびツキイチウォーキングにより、町内様々なウォーキングコースを紹介	66.7	75	
	大人の運動習慣（週2日以上、1回30分以上（運動））	20歳以上 既存データ集計	アンケート 20.6	33.7	・くまどりタビオ元気体操ひろめ隊による「くまどりタビオ体操（プラス）」の普及・特定保健指導にて、運動習慣の必要性を指導し、日々の歩数を記録する表を配布	35.6	40	
					・「タビオステーション」の立ち上げ支援や継続支援の実施			

分類	評価指標	対象	方法	H2O	H25	取り組み	H29	H30目標値
休養・ こころの健康	主観的健康観が「とても、まあまあ健康である」割合	20歳以上	アンケート	78.6			80.8	80.8
	未就園児の起床時間が8時台の割合	未就園児	アンケート	18.5			24.3	5.1
	未就園児の就寝時間が11時台の割合	未就園児	アンケート	7.7 (H26)	・睡眠と健康をテーマにボランティアグループへ研修を実施	0	3.2	
	睡眠による休養をとれている人（十分、まあまあ）の割合	40歳以上	アンケート	75.4	・自総対策として、ゲートキーパーの養成、「相談窓口ガイド」と び「ゲートキーパー手帳」の作成・配布、メンタルチェックシステム「こころの体温計」の導入・運用など	69.6	80.1	
	生きがいや充実感が「非常にある、ある」と答えた人の割合	40歳以上	アンケート	70.6		67.4	70.6	
	自殺者の減少 (過去5年間の自殺者数の平均)	全体会員 (H20-24)	既存データ集計	6.4人 (H20-24)		56人 (H25-29)	0人	
	喫煙への興味（ある、少しはある）	小6・中2	アンケート	5.9		4.7 4%以下		
	たばこが及ぼす健康への影響（肺がん以外）	小6・中2	アンケート	48.1	・妊娠届時に家族の喫煙状況を問診し、喫煙があれば指導	46.8	80%以上	
たばこ	20歳以上の喫煙	男性	アンケート (40歳以上)	16.5	・4か月見健診時に母親の喫煙状況を問診し、指導 ・特定健診検査時に喫煙者に対し、医師より指導と併せて、禁煙外 来一覧を配布	23.1	20%以下	
	妊娠中の喫煙	女性	アンケート	7.5		7.8	5%以下	
	お酒に興味のある人の減少	小6・中2	アンケート	46.1		4.8	0	
	妊娠期の飲酒の減少		妊娠届集計	0.6		38.6	35	
アルコール	飲酒者のうち、1日3合以上飲酒する人（多量飲酒）の減少	男性	アンケート	5.9	・妊娠届時に飲酒状況を問診し、飲酒があれば指導	7.2		
	飲酒者のうち、生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の減少（男性2合、女性1合以上）	女性	アンケート	0.9	・4か月見健診時に、母親の飲酒状況問診し、指導	3.5		
	（ほぼ）毎日飲酒する人の減少	男性	アンケート	20.1	・特定健診結果説明会時の保健指導時に、飲酒によるアルコール摂取量を確認し、指導	22.6		
	（ほぼ）毎日飲酒する人の減少	女性	アンケート (保護者)	31.6		34.9		
	むし歯のない子どもの数の割合	1歳7か月児	既存データ集計	95.9		41		
	1人平均むし歯数	3歳6か月児	既存データ集計	97.8		10.8		
	定期的（年に1回程度）に歯科検診を受けた人の割合の増加	中1	既存データ集計	67		99.3	99.5%以上	
	歯みがきを1日に3回以上する人の増加	20歳以上	アンケート	80.7		85	85%以上	
歯・口腔 の健康	歯みがきをするどきに歯間部清掃用具（糸ようじなど）を使う人の増加	小6・中2	アンケート	38.5	・歯科健診（妊娠、1歳7か月児、2歳6か月児、3歳6か月児） の実施 ・フッ素塗布（1歳7か月児、2歳6か月児）の実施	0.83本	1本未満	
	自分の歯が24本以上ある人の増加	20歳以上	アンケート	29.9	・すくすく相談の中で歯科相談を導入 ・成人歯科検診（個別検診）の実施 ・ふれあい元気教室やタビオステーションで口腔機能向上プログラムの実施	24.5	40	
		20歳以上	アンケート	27.3		24.8	40	
		60歳代	アンケート	40.9		44.7	50	
				34.8		37.4	40	

分類	評価指標	対象	方法	H20	H25	取り組み	H29	H30目標値
健康 チェック	特定健診受診率の向上  がん検診受診率の向上  乳幼児健診受診率の向上  地域とのつながり(絆)	既存データ集計	25.9	34.1	・休日健診の実施、がん検診等各種検診とのセット健診の実施		39.1	41
		胃がん	既存データ集計	6.1	6.7		5.9	40
		大腸がん	既存データ集計	6.8	8.5	・休日検診の実施 ・祝日レディースセット検診の実施	15.1	30
		乳がん	既存データ集計	22	22.5	・特定健診と同日に検診の実施 ・乳・子宮頸がん検診の新規対象者に無料クーポン券を送付	21	40
		子宮頸がん	既存データ集計	15.1	25.8	・未受診者へ受診勧奨の実施	25.2	35
		肺がん検診	既存データ集計	12.1	18.7		14.1	35
		4か月児	既存データ集計	97.8	98.5		96	100
		1歳7か月児	既存データ集計	97.9	96.1	・未受診者への電話、訪問等による受診勧奨の実施	97.7	100
		2歳6か月児	既存データ集計	88.4	91.8		90.1	100
		3歳6か月児	既存データ集計	88.8	95.3		95	100
		全員	アンケート			・出前型健康教室「生涯現役教室」の開催 ・健康づくりを推進するボランティアグループ（健康くまとりタビオ元気体操ひろめ隊、熊取町食生活改善推進協議会、くまとりタビオ元気体操ひろめ隊）支援 ・健康教室卒業生による自主体操グループ結成支援	52.7	67
		主体的に健康つくりに取り組む自主活動グループの数(健康分野)				・「タビオステーション」の立ち上げ支援や継続支援 ・「タビオカフェ」の立ち上げ支援 ・認知症力フェの立ち上げ支援	27団体	13団体
		大学などとの連携事業の数(健康分野)				・町内大学など連携した介護予防事業や認知症施策の実施 ・地域課題の抽出、担い手の養成、ネットワーク構築など、コンサルタント機能を担うサービス協議体を設置 ・介護予防サービス協議体を設置	3事業	5事業

## **5. 今後の健康課題**

---

これまで述べてきた本町の現状とこれまでの取り組みの評価を踏まえ、今後取り組むべき課題として見えてきたおもな健康課題はつぎのとおりです。

### **5-1. 妊娠期からの望ましい生活習慣の確立**

妊娠届出時の母の喫煙率、飲酒率は減少傾向ですが、健やかな妊娠・出産のために0%をめざすことが重要です。

妊娠期はアルコールやたばこが身体に及ぼす影響について普及・啓発するとともに、禁酒・禁煙をすすめ、望ましい生活習慣の基礎を獲得できるよう、取り組みを行う必要があります。また、食、運動、睡眠、歯の健康づくり等を含め、生涯を通じて重要な「望ましい生活習慣の確立」については、妊娠期、乳幼児期から高齢期まで切れ目なく、各ライフステージに応じた取り組みに力を入れ、「個人」だけでなく「家族」、さらには「地域全体」の健康づくりの推進に取り組む必要があります。

### **5-2. 食育の推進**

食育の推進には、妊娠期から高齢者まで生涯にわたるライフステージに応じた切れ目のない取り組みが必要です。特に20~30歳代の若い世代を中心とした取り組みから次世代につながるよう重点的に取り組むことで、早期からの生活習慣病の発症を予防し、健康寿命の延伸にもつながります。

また、高齢者のフレイル対策として、全体的な啓発と低栄養のリスクが高い一人暮らしの方を中心とした取り組みが必要と考えます。

なお、食育の推進にあたっては、多様な状況への対応や、地産地消をはじめ食の生産から消費までの理解、食文化への理解も深めるよう、関係機関が連携して取り組む必要があります。

### **5-3. 検（健）診受診率の向上（生活習慣病の早期発見と重症化予防）**

がん、糖尿病、高血圧等の生活習慣病を早期に発見するためには、各種検（健）診を受診することが重要ですが、その受診率が課題となっています。特に40歳代の受診率が低く、若い年代の受診勧奨に取り組む必要があります。

医療費の中で、腎不全、糖尿病、高血圧性疾患、脂質異常症など、生活習慣病が上位を占めており、生活習慣病の早期発見、重症化予防にも重点的に取り組む必要があります。また、脳血管疾患・心疾患死亡をさらに減少させるために、引き続き心房細動の啓発、受診勧奨・受診確認を丁寧に行っていくことが重要です。

#### **5-4. 住民一人ひとりの健康を支え、守るために社会環境の整備**

健康まちづくりを進めるうえで、地域とのつながりは重要な課題です。アンケート調査結果からは、住民と地域とのつながりがさらに薄れている傾向がみられ、危惧されるところです。地域での健康づくりに携わる人材の育成を進めるとともに、地域・社会での居場所づくり、自主活動グループの支援、関係団体や町内大学と連携し、ともに支えあい、協働で健康まちづくりを推進する環境整備を行うことが重要です。

#### **5-5. いのちを支える社会の実現**

自殺は、誰にでも起こり得る身近な問題であり、その多くが防ぐことができる社会的な問題です。本町でも毎年自殺者が出ており、中でも若年層の自殺者が比較的多くなっていることから、若いうちから「生きることの包括的な支援」を行うことが重要です。自殺の要因となり得る生活困窮、いじめ、健康問題など、「生きることの阻害要因」を減らし、自殺に追い込まれようとしている人が安心して生きられるよう、精神保健的な視点だけではなく、社会・経済的な視点も含めて、さまざまな分野の施策と人や組織の密接な連携により、社会全体でいのちを支える体制の構築が求められます。

